

山中は人の往來不自由にして、淋敷質朴なれば賣女遊里も無く、濕毒傳染の憂もなし、海邊は何方にも、諸國の通路よければ、賑に華麗にて、遊女あらざる所もなく、人ことに濕毒をうつり、且又鹽風に濕氣を受けて内外より病を作り養ひ、心氣を勞し腎をつからし、いかなる壯實の生れ付といへども、短命病身ならざる事あたはず、是山中と海邊の壽夭の違ひの根本なり。○下

〔閑田耕筆二〕壽夭の天命いかにもすべからねども、あるひは善により不善によりて、延促あるべきことも、またたがはぬことなるべし、袁了凡の陰騭錄にも、此旨をねもごろに示さる、こゝに一話有、畑鶴山一とせ津國郡山の近邑宿庄といふにあそびて、その豪農某にあひたるに、其面左方へゆがみて、又あるまじき象なりしに、其人もあやしく思はんと心得てや、吾面につきて物がたり有とて語りしは、おのれ十二三年の年父京へつれ行て、時に名ある相人郭塞翁に見せしめたり、其時は人なみ／＼の面也き、塞翁見て此兒の壽十九歳に限るべしといふ、父大に歎きて遁るべき法もあらんやととふ、翁しひておこなはゞなきにもあらじなれど、得行はじとこたふ、父たとひ家を傾るほどの金錢を參らすもいとほじ、唯此延壽の法を教へ給はれと乞しに、翁勃然として吾は金錢を貪るものとやおもふ、さるこゝろにては、いよ／＼教ふとも行はじとて、ふたたびものいはず、父旅宿に歸りても、唯此ことをのみうれへて、さきの失言を謝し、再三翁に乞たれば、翁さらば教へん、他のことにあらず、きく所そこの家村中にゐて他の嗜好なく、富ていとまあるまゝに、漁獵をもてあそびとす、是天死の所以也、若以後かたく殺生を慎まば、あるひは壽限を延べし、此外に術なしといへり、是よりふつに殺生を止めしが、おのれ十七といふ年、父は身まかりぬ、我先立て汝が死をみざることをうれしきとなん申き、さて十九になりたる年、一夜頭割がごとく痛みて苦しきこといふ計なし、時に彼塞翁が言を思ひ出で、今夜身まかるべしと決せしが、夜の明行に隨ひ漸々に痛かるみて、朝になりて止みしかば、聞を出しに、家の内の者どもか